

当法人が掲示した掲示物に関するご報告と 今後の対応について

2026 年 10 月 7 日

認定 NPO 法人 釜ヶ崎支援機構

このたび、認定 NPO 法人釜ヶ崎支援機構が地域内に掲示していた掲示物について、ホームレス状態になっている人に対する差別や偏見を助長する表現ではないかのご指摘をいただきました。

ご指摘を受け、法人として当該掲示物の確認及び作成・掲示に関わった職員への聞き取りを行いました。

その結果、ホームレス状態になっている人への支援に取り組む団体として配慮を欠いた、不適切な表現であったと判断しました。法人として、このことを看過すべきではないと考え、今回の経緯と法人としての認識、今後の対応についてご報告します。

当該掲示物について

当該掲示物は、地域内でゴミ袋が開けられ、ゴミが散乱することが繰り返されていたことから、「ゴミ袋を開けたり、ゴミを荒らさないでください」と呼びかける目的で、当法人の職員が作成し掲示したものです。

掲示物には、髪や髭が伸び、汚れたように見える服装をした人物がゴミ箱の中をあさっている様子と、その周囲に散乱したゴミやカラスを描いたイラストに、禁止を示すマークを重ねた表現が使用されていました。

なお、この公表に際して当該イラストを改めて掲載することは、それ自体が偏見を再生産し、当事者の方を傷つける可能性があると考え、掲載していません。

法人としての認識

作成・掲示に関わった職員への聞き取りを行った結果、当該掲示物はゴミを荒らす行為を防止する目的で作成されたものであり、ホームレス状態になっている人を差別したり、差別を助長したりすることを意図して作成されたものではなかったことを確認しました。

一方で、差別は必ずしも明確な悪意や差別しようとする意図を伴って現れるものではありません。今回の掲示物には、社会の中に存在するホームレス状態になっている人への固定的なイメージが無自覚なまま取り込まれ、それを結果として再生産する表現が含まれていました。

法人として、意図や悪意がなかったことをもって問題がなかったとは考えていません。むしろ、私たち自身の中にも、社会に存在する偏見や差別意識が無自覚に入り込む可能性があることを認識し、それを問い直していく必要があると考えています。実際にゴミを荒らしていた人がどのような人であったのか確認できていないにもかかわらず、社会の中でホームレス状態になっている人を想起させ得る人物像を「ゴミを荒らす人」として表現したことは、「ホームレス状態になっている人＝ゴミをあさる人」「ホームレス状態になっている人＝地域に迷惑をかける存在」といった、すでに社会に存在する偏見や固定的なイメージを強めることにつながり得るものでした。

また、当法人は、長年にわたり野宿者や生活困窮者への支援に取り組んできた団体です。その私たち自身が、たとえ意図せずとも、野宿者に対する偏見や差別を助長しかねない表現を地域の中に掲示してしまったことを、法人として重く受け止めています。

また、当法人では、本年4月20日に職員による野宿者への排除事案が発生し、その後、法人として再発防止に向けた取り組みを進めてきました。

そのような中で、今回、事案の性質は異なるものの、再び野宿者に対する偏見や差別につながり得る問題が法人内で生じたことを、私たちは重く受け止めています。

今回の事案は、これまで進めてきた取り組みがまだ十分ではなかったことに加え、明確な悪意や差別意識のある行為だけを防止しようとしても十分ではなく、私たち自身が無自覚に持っている固定観念や、日常の中で「当たり前」としている認識についても問い直していく必要があることを示すものだと考えています。職員一人ひとりが法人の理念や人権、差別について学び、それを日々の業務の中で実践するための仕組みを、さらに整えていきます。

今回の問題を、掲示物を作成した職員個人だけの問題とは考えていません。必要な知識を職員に伝え、学ぶ機会を十分につくることができていたのか。また、法人名を掲げて地域に発信する掲示物について、適切に確認する仕組みをつくることができていたのか。これらについては、法人としての責任があります。

今後の対応について

1. 当該掲示物の撤去

問題となった掲示物は撤去しました。

2. 法人内で掲示している掲示物の一斉点検

各事業部が現在掲示している掲示物について、不適切な表現等がないか改めて確認します。

3. 掲示物の確認・承認体制の強化

当面の間、新たに作成する掲示物について、管理者等による事前確認を行ったうえで掲示することとします。

4. 人権・差別に関する研修の実施

差別は必ずしも明確な悪意を伴って現れるものではないこと、私たち自身も社会に存在する固定観念や偏見を無自覚に取り込む可能性があることを含め、今回の事案を法人全体の学びにつなげるための研修を実施します。

最後に

釜ヶ崎支援機構は、野宿者や労働者をはじめとする人々への差別や排除を許容しません。

また、私たちは、自分たちが差別をしないということだけではなく、社会の中に存在する差別や排除をなくしていく側に立つ団体でありたいと考えています。

だからこそ、今回、私たち自身が不適切な表現を発信してしまったことを真摯に受け止めなければなりません。

一方で、今回のことを誰か一人を責めることで終わらせるのではなく、**問題があれば問題として認め、なぜ問題だったのかを学び、組織として次の行動を変えていくことが必要だ**と考えています。

今回の事案を法人全体の学びとし、同様のことを繰り返さない組織づくりを進めるとともに、今後も社会の中に存在する差別や排除をなくしていくための活動に取り組んでまいります。

認定 NPO 法人 釜ヶ崎支援機構

理事長 山田 實